

ふれあい

2012年 **冬季号** vol.45

2012年(平成24年)2月15日発行

病院
理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様にも、より高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。



患者さんコーナー

名古屋市長 和田弘 様

前略

此の度小生、金沢脳神経外科病院にて佐藤院長先生のご執刀による「腰部脊柱管狭窄症」のMD法による手術を受け、術後も順調に回復し、リハビリの訓練も終了し、お陰様で十二月十五日に退院しました。絶望の淵から明るくて未来が開ける希望の灯が点る岸へ辿り着いたという心境です。今までも総合病院や専門の整形外科病院(複数)で治療を受けましたが、重症と高齢を理由に手術を受けることが出来ませんでした。

ところが今年3月家内(能登出身)の姉(能登)から金沢にとても良い病院があるとの情報があり、直ちに貴病院に連絡し4月から毎月診察に伺う様になりました。

最初MRI等の検査の結果、手術が難しいかも知れないという診断でしたが院長先生のご決断で無事手術を受けることが出来、本当に感謝しております。

入院中は佐藤院長先生始め主治医の山本先生、古賀看護師長及び各スタッフの皆様に至れり尽くせりのフォローを頂き感謝申し上げます。貴病院の病院力のレベルの高さに只々敬意と感謝の念を払うものです。今後の院長先生始め皆様のご活躍とご健康を心からお祈り致します。

草々

最小侵襲手術による腰椎固定術は 次世代型手術



病院長
佐藤 秀次

私は10年以上前まで、腰椎固定術は腰の真ん中を大きく切って筋肉を開き、骨を削って神経の圧迫を取り、ペディクルスクリュー(骨と骨を固定する金具)を用いた固定術を行っていました。手術が成功し歩行障害や下肢の痛みは取れても、腰の痛みや重だるさ、ドレーンと鉛が腰に入っているような不快な感じなどが残る患者さんが少なからずいました。私はこのような大きな切開の固定術が患者さんに残す苦痛をなくしたいと切望するようになりました。手術の成功を患者さんも医師も両方が喜ぶことの出来る固定手術、それが最小侵襲固定術(小さな切開の固定術)です。この小切開の固定術は外国ではすでに始められていましたが、日本国内では未開拓の領域でした。独自に改良に改良を重ね、現在は3~5cmの切開を左右に加えるのみで、神

経徐圧と椎体間固定、ペディクルスクリュー固定をしているため、手術時間は1椎間(腰椎2個の骨を固定する)では2~3時間、出血量は平均100ml程度。大きな切開の固定術では出血量が多いため輸血が必要ですが、これも不要になりました。痛みが少なかった患者さんは翌日から歩行を開始できます。大きな切開の固定手術では痛みが強く、術後は麻薬が用いられることが多いですが、小さな切開による固定術では、手術直後には約6割、退院時には約8割の患者さんが鎮痛剤不要となつていきます。術後、定期検査に外来を訪れる患者さんとの出会いは私にとつて楽しみになりました。手術自体が患者さんに残す不快な症状は無くなったと言っても良いからです。小さな切開による固定術は変性すべり症、分離症、分離すべり症、腰椎不安定症、側弯症などに幅広く行っています。小切開固定術は国内ではごく少数の外科医師によってしかまだ行われていない、次世代型の固定手術なのです。



患者さんの “生活の質の向上”と “健康寿命の延長”を 考える医院

医療法人社団
有川整形外科医院



院長：有川 功 先生

当院から車で10分、松任郵便局や松任警察署がある白山市八ツ矢町に今回ご紹介する「有川整形外科医院」があります。同院の院長である有川功先生が、診療でお忙しい中、快く取材に応じてくださいました。

有川整形外科医院では、整形外科・皮膚科・神経内科・和漢外来・リハビリテーション科・内科を標榜されており、整形外科では、四肢・体幹の疼痛疾患、外傷疾患等の診療に加え、「生活の質向上診療部」と「健康寿命延長診療部」の2つの特徴ある診療部門を設けています。生活の質向上診療部は、健康上問題がある方を対象に、日常生活の活動を高めることによる、「生活の

質の向上」、「健康寿命延長診療部は、高齢者を対象に、元気で介護なしで暮らせる、「健康寿命の延長」を目的とし、9名の理学療法士とともに運動器リハビリテーションに力を注いでおられます。

また、メタボリックシンドローム（略してメタボ）とならぶ深刻な社会問題として、最近注目されている、ロコモティブシンドローム※1（略してロコモ）にも取り組んでおられます。メタボの原因が内臓脂肪の蓄積であるのに対し、ロコモは運動機能の低下が原因でおこります。メタボもロコモも、現代人の健康寿命を延ばすカギです。自分のロコモ度が気になる方は有川整

形外科医院のホームページをチェックしてみてください。（トップページ↓健康寿命延長↓ロコモティブシンドロームとは）

先生から『歯科診療に学ぼう！』をスタッフのスローガンにされていると伺いました。「最近の歯科医は、患者さんが80歳になられた時を想定して、簡単に大切な歯を抜かず、一本一本丁寧に治療を積み重ね、歯全体を治療します。私たちも一つ一つ丁寧に治療を積み重ねることで、患者さんの「生活の質の向上」や「健康寿命の延長」に努めたいと考えています。」と語られる先生は温かく、溢れんばかりの情熱が伝わってきました。今回の取材を通して、有川整形外科医院が地域の方々たいへん支持されているのが理解できました。

※1 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）
骨や関節、筋肉の動きの信号を伝える神経などが衰えて、「立つ」「歩く」といった動作が困難になり、要介護や寝たきりになってしまうこと、または、そのリスクが高い状態のこと。

院長：有川 功 先生
経歴：昭和40年 金沢大学医学部整形
外科入局
昭和45年 公立小浜病院
昭和51年 星ヶ丘厚生年金病院
昭和60年 現在地に開業
専門：日本整形外科学会認定医
日本整形外科学会運動器リハビリテーション医

DATA

医療法人社団
有川整形外科医院

住所

石川県白山市八ツ矢町232-2

TEL

076-275-7500

URL

<http://www.arikawaseikei.jp/>



O-ARMと共に進化する 脊椎固定手術

O-ARM(オーアーム)は、X線を用いた透視画像とCTのような断面画像を手術中に撮影できる装置です。当院にO-ARMが導入されてから半年が経ち、45件の脊椎固定手術(腰椎39件、頸椎6件)を行いました。

O-ARMはアルファベットの「O」の形をしており、その輪の中に手術台が入ります。「O」の内部をX線管球と検出器(フラットパネルディテクター)が360回転しながら撮影を行うことが出来るので、CT画像のような横断面を撮影することが可能になりました。



これまでは、外科用イメージで正面からと側面からの透視像で手術を行ってきましたが、O-ARMによって手術中に横断面の撮影が可能になったので、固定に使用するスクリーンの位置が3次元的に把握できるようになりました。特にスクリーンの

進入点を決めるのが困難だった側弯型の脊椎狭窄症の患者さんの手術が一段と安全かつ正確に行えるようになりました。

また、当院には手術室にCTが無く、術後の検査は閉創後に1階のCT室で行っていました。閉創前に手術室で術後の検査を行えるようになりました。おかげで手術終了から回復室への入室時間が短縮され、術後管理やご家族の面会も早くできるようになりました。



TOPIC

平成23年度秋季防火訓練

11月9日に平成23年度秋季防火訓練が開催されました。6病棟から火災が発生したとの想定で、初期消火、通報、模擬患者の避難・誘導、消防隊員による「はしご車」の救助を行いました。各職員が、患者さん役・誘導係などに分かれ、本番さながらの訓練が行われました。



TOPIC

第2回救急症例検討会

12月9日に平成23年度第2回救急症例検討会が行われました。今回は10月から11月にかけて当院に搬送された救急患者の中から4症例が検討されました。各症例を搬送した救急隊員の方とそと担当した医師により、現着時の様子から当院に搬送されてからの検査結果、その後の容態を含め意見交換が行われました。症例検討会後、山本副院長の「めまい」に関する小勉強会も行われました。



TOPIC

ふれあいコンサート開催される。

11月14日に金沢市出身のピアニスト生垣淑子(いけがきよしこ)さんによる「ふれあいコンサート2011AUTUMN〜ピアノの調べ〜」が開催されました。

「子犬のワルツ」、「カルメン」といった有名な曲の演奏に始まり、演奏の間にはクラシックの曲を使ったリズム体操、最後に「あかとんぼ」をみんなで合唱して、コンサートは盛況のうちに終了しました。



言語聴覚士による取り組み

リハビリテーションセンター 言語聴覚士 谷口 昌代

言語聴覚士という仕事を初めて耳にした方が多いと思います。当院言語聴覚士のスタッフは現在9名で一般病棟、回復期リハビリテーション病棟で働いています。主に脳血管障害で失語症、運動障害性構音障害といった、聞くことや話すことに障害がある方や摂食・嚥下障害といわれ飲み込みに障害をもった方に対して個別に検査を実施し、その方に合った練習又は指導・援助を行っています。

具体的には失語症といわれ大脳の言語中枢に損傷をうけ、相手の話が上手く聞き取れない、読めない、または伝える事が出来ないといった具合に言葉に不自由が生じている方、運動障害性構音障害といって、声が小さくなってしまった為に思ったことが伝えにくかったり、舌、唇、頬などの麻痺により、それらの回りにくさが生じ、話しにくさが感じられるといった症状がある方に対して、その方の持っている能力を伸ばしコミュニケーションが円滑にいくような練習を行ったり、また周

りの方の対応を指導する事で良好なコミュニケーションが取れる様に働きかけています。その他、特徴的なのは摂食・嚥下障害のある方にVF検査といわれる検査があり、飲み込みの状態をX線の透視下で診ます。またVE検査(X線透視室まで行けない方に行っている事が多いです。)というファイバースコープで直接飲み込みの状態を診る検査も実施しています。これらの検査を行う事で安全な食事形態を見つけてる事ができ、又安全な食事方法を検討しています。

私たちは、その人らしい人生を再び歩んでもらえるように、専門の知識や技術でコミュニケーションに障害のある方のお役に立てるよう日々努力しています。

再び歩んでもらえるように、専門の知識や技術でコミュニケーションに障害のある方のお役に立てるよう日々努力しています。



院内研修・院外活動 (2011年11月～2012年1月)

- 11/5 白山・野々市地区学術講演会(グランドホテル松任)
山本副院長が特別講演の座長として参加しました。
耳寄りな講演会「腰に関するお話(白山市民交流センター)」
講師：佐藤病院長
- 11/26 地域住民の方々を対象とした講演会を開催しました。
第10回加賀脳卒中地域連携バスWG会議(石川県地場産業振興センター)
当院が事務局を担当する加賀脳卒中地域連携バスWGの会議を開催しました。
- 12/1 金沢脳神経外科病院地域連携の会「金沢地区連携交流会(ホテル金沢)」
金沢地区の医療・介護施設を対象とした連携交流会を開催しました。
- 12/2 耳寄りな講演会「脳卒中と認知症」(シオタニメモリアルサロン)
講師：山本副院長
- 12/10 地域住民の方々を対象とした講演会を開催しました。
院内研修会「職種間のコミュニケーションのあり方」
講師：佐藤病院長
- 1/5 全職員を対象とした研修会を開催しました。
- 1/16 院内研修会「病理医とは」
講師：茅ヶ崎徳州会総合病院病理診断科部長 宮沢善夫先生
全職員を対象とした研修会を開催しました。
- 1/21 金沢脳神経外科病院主催リハビリテーションセミナー「ハピリスの本質を考える」
講師：茨城県立健康プラザ施設長 大田仁史先生
院内内外希望者を対象としたセミナーを開催しました。
- 1/25 耳寄りな講演会「あなたの脳は健康ですか」
講師：山本副院長
- 1/30 地域のケアマネージャーの方々を対象とした講演会を開催しました。
医師事務作業補助研究会石川県支部研修会
当院が事務局を担当する日本医師事務作業補助研究会の石川県支部研修会を開催しました。

